

5 - 6 最近の富士山の低周波地震活動

Recent activity of the low frequency earthquakes at Mt. Fuji

防災科学技術研究所

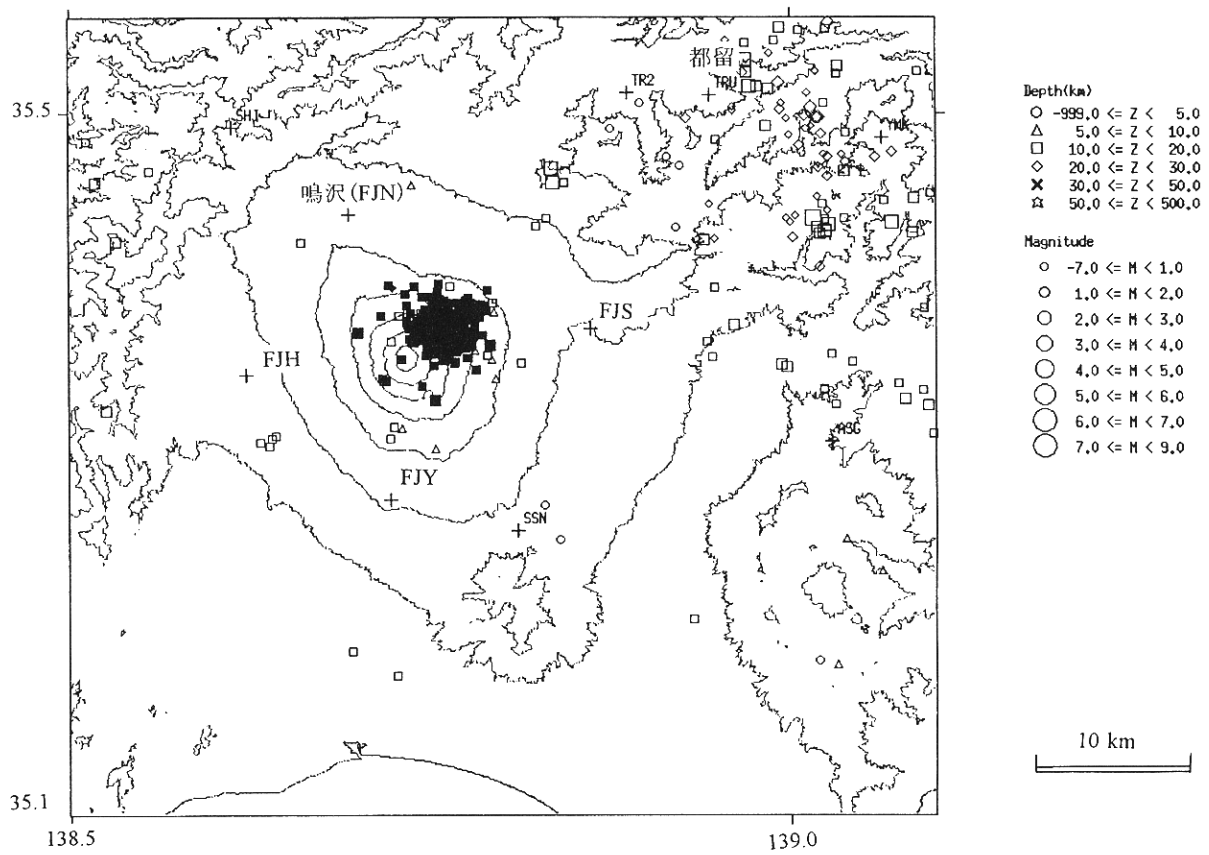
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

富士山では山頂直下，深さ10～20kmに深部低周波地震活動がしばしば発生することが知られている。2000年9月以降，この深部低周波地震活動が活発化した。第1図に2000年8月から12月6日までの震央分布を示す。この期間に260個の低周波地震が震源決定された。最大地震は，11月12日05時24分に発生したマグニチュードが1.6の地震で，ほとんどはM1.0以下である。

1回の低周波地震活動は，通常，数個～十数個の低周波地震が数分から十数分間に連続的に発生する。この低周波地震の群を1回の低周波地震活動として，各低周波地震活動の継続時間と観測された最大振幅を菱形により，第2図に図示した。図示した期間は1980年から2000年12月6日である。1997年以降検知された活動回数が増加が見られるが，これは観測網整備が進み検知能力が向上したためである。

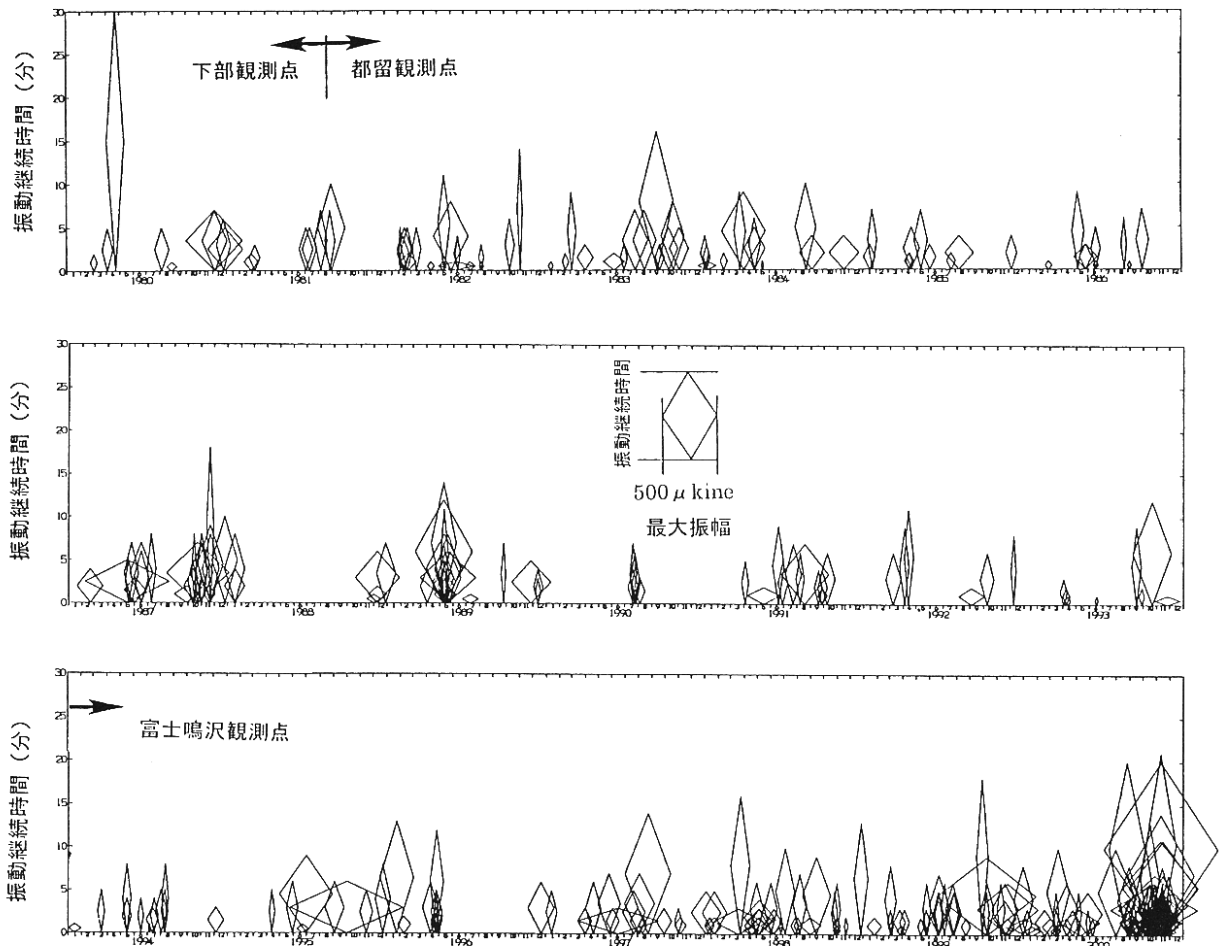
1980年以降，年間10～15回程度の低周波地震活動が平均的に発生しているが，2000年9月から11月の3ヶ月間に114回の活動が認められ，1980年以降で最大の低周波地震活動である。特に11月は71回と非常に発生頻度が高かった。この期間，傾斜変動には特に顕著な異常変化は観測されていない。

(鵜川 元雄)



第 1 図 富士山周辺の震央分布図 (2000年8月1日 ~ 2000年12月6日)。塗りつぶした記号は低周波地震，中抜きの記号は普通の地震を示す。

Fig.1 Epicenter distribution of the low frequency earthquakes at Mt. Fuji during the period from August 1, 2000 to December 6, 2000. The low frequency earthquakes are indicated by solids symbols, and ordinary earthquakes by open symbols.



第 2 図 低周波地震活動度を示す菱形ダイアグラム (1980年1月1日 ~ 2000年12月6日)。菱形の高さは、1 回の低周波地震活動の継続時間、幅は観測された最大振幅を示す。

Fig.2 A rhombus-diagram showing the low-frequency-earthquake activity at Mt. Fuji from January 1, 1980 to December 6, 2000. Hight and width of each rhombus indicate the duration time and maximum amplitude of each activity.